

会議録

会議の名称	令和4年度第4回ふじみ野市地域福祉計画審議会			
開催日時	令和5年2月17日(金) 開会時刻 午前10時 閉会時刻 正午			
開催場所	ふじみ野市役所第3庁舎2階 C201・202会議室			
出席した者の氏名	役職名	氏名	役職名	氏名
	会長	山本 美香	事務局	岩崎 明央
	副会長	岡田 哲郎	事務局	角張 ちひろ
	委員	奈良 環	福祉総合 支援チーム	大川 優生
	委員	今野 悦也	社会福祉協議会	嶋村 武彦
	委員	市来 久美子	社会福祉協議会	植草 英二
	委員	金田 友記	ジャパン総研	地引 綾
	委員	當麻 俊輔	ジャパン総研	新橋 明奈
	委員	柳川 道子		
	委員	山城 いづみ		
	委員	小林 和恵		
	委員	村田 和也		
	委員	正田 実		
	委員	小泉 慎介		
会議の議題	(1) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための調査結果報告書について (2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための調査結果報告書から見えた課題のまとめについて			
会議の公開又は非公開の別	公開			
会議の非公開の理由				
傍聴人の数	0人			
発言の内容	別紙「発言の要旨」のとおり			
会議資料	別添のとおり			
事務局	福祉部地域福祉課			
議事の確定	確定年月日	令和5年2月28日		
	記名押印 又は署名	役職名 会長 山本 美香 ㊟ ※自署の場合は、押印不要です。		

発言の要旨

発言者	発言の要旨
岩崎課長	<p>会議開会に先立ち、事務局より伝達事項がございます。 市では、開かれた市政を推進するため審議会等の会議を公開することとしており、本審議会についても、会議を公開することとなっております。 本日の傍聴希望者はありませんので、このまま会議を開会させていただきます。</p>
岩崎課長	<p>1. 開会 それでは、令和4年度第4回ふじみ野市地域福祉計画審議会を開会します。 本日の審議会委員の出欠状況でございますが、欠席の委員は小菅委員の1名で、出席委員は13名となっております。本審議会の総委員数は14名です。本日の出席委員数は、半数以上が出席されており、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第2項に基づく審議会の開催要件を満たしていることをご報告します。</p> <p>また、本日の審議会には、ふじみ野市地域福祉計画審議会条例第6条第4項の規定により、ふじみ野市社会福祉協議会の職員、また第3期地域福祉計画策定のお手伝いをいただきます、受託業者の株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の職員にも出席いただいておりますので、ご報告します。</p> <p>ここで、本日の会議資料の確認をさせていただきます。</p>
事務局	<p>(事務局より配布資料の確認)</p>
岩崎課長	<p>それでは、次第の「2. 議題」に移ります。 ここからの進行は、ふじみ野市地域福祉審議会条例第6条第1項の規定に基づき、山本会長にお願いしたいと思います。 よろしく願いいたします。</p> <p>2. 議題 (1) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための調査結果報告書について</p>
山本会長	<p>それでは、議題1「第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための調査結果報告書」について事務局より説明願います。</p>
事務局	<p>(事前送付資料②③により、議題1についてのポイントと報告書追加部分について、事前配布資料⑤により、テキストマイニングについてジャパン総研より説明)</p>
山本会長	<p>前回に続きまして、庁内関係課への調査ということで追記をしていただいた部分と、各アンケートにおける自由記述の部分について共起ネットワークを使って図式化したものについてご説明いただきました。</p>

事務局	<p>私の方から1点お尋ねしたいのですが、こちらの庁内関係課調査の部分に記載されている文章というのは、庁内の方からのご意見ということになるのでしょうか。</p> <p>はい、おっしゃる通りです。 庁内関係課への調査内容の中で、「第2期計画全体を通しての評価と課題」ということで各課に回答いただいたものを抜粋して載せさせていただいております。</p>
山本会長	<p>そうしますと、こちらに載っているものは庁内のみなさまからの自由記述ということになりますね。</p> <p>では、委員のみなさまからも何かご意見等ありますでしょうか。</p>
柳川委員	<p>地域福祉計画では、きめ細やかさというところで気になる部分がありますが、経過的に進展していくものなのかなと思っております。</p> <p>活動目標をもっときめ細やかに設定していかないと、先が見えないのではないかと感じました。</p> <p>調査の中で、さまざまな評価基準や、オンラインツールの普及などをやられていますが、大きく地域福祉活動をふじみ野市でどう進展させていくのかという部分が、まだはっきりしてこないところがある印象です。そのひとつとして、問題意識として感じているのが、ABC評価だけでは見えてこない部分です。</p> <p>地域活動を行う団体は、ボランティアやNPOなどさまざまな組織があります。そういった団体の活動は市としてきちんと登録して活動しないとリスクが伴うという意見を何度か言わせていただいています。</p> <p>他にも気になる点をいくつか挙げさせていただきますと、「福祉をつなぐネットワークの強化」という部分にあたるかと思いますが、総合支援の点で、ケース検討はそれぞれの専門職の間でどのようにされているのかという点です。</p> <p>ふじみ野市も例外はないですが、日本は市民活動の歴史が浅いので、機関も含めてひとつひとつ丁寧にやらないと体系化できないと感じています。企業や事業所が福祉活動、非営利活動を行う時の組織の形を検討していかないと右往左往してしまう時があります。フランスの場合はボランティア活動が盛んで、自由に行えていて、行政的にも横のつながりができているというような形です。</p> <p>重ねて、細やかな対応をしていかないと実効性が伴わないのではということも意見させていただきます。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>おっしゃる通りきめ細かい部分まで見ていかないといけないですよ。岡田副会長もよく指摘される、小さな単位から作っていくことを入れていかないといけないのではということもまさにその通りだと思います。</p> <p>ケース検討という点に関しては、専門職について、重層の支援体制整備事業にも関係してきて、さまざまな課題を抱える人たちの問題解決がどのようにされているか、もう少しこの調査で見えてもいいのではということでしたが、庁内関係課調査は今回程度のページ数になるのでしょうか。</p>
ジャパン総研	<p>報告書としては、今回程度ものになります。</p>

山本会長	では、ケース検討については、大川チームリーダーいかがでしょうか。
大川チームリーダー	<p>他機関、他種職との連携については、専門機関だけでなく地域の資源、地域において個人で支援してくださっている方にまでおよんだ連携が必要であるということをも身をもって感じております。</p> <p>日々の業務の中では、できる限り情報収集を私どもが中心になってやりながら、相談がきたその日のうちに関係機関で集まり相談をするということをやっております。制度的にはプランニングする方について、支援調整会議というものを月に一回、固定で開催しております。また多問題ケースについてはプランニングの有無に限らず、ケース検討会ということで都度関係機関を招集し行っています。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>今のところ言うと、ふじみ野市は重層的支援体制整備よりも前に、「ふくし総合支援センターよりそい・にじいろ」を設置していて、すばらしい取組の一方、調査を見ますと、認知度が低く、この点についてはもしかしたらコロナで市民活動が停滞している事と関わっているのではないかと思います、その部分を今後どう盛り上げていくか、周知していくか考えていく必要があるのではと思っております。</p> <p>他にいかがでしょうか。</p>
岡田副会長	<p>議論の中で、第2期計画の「基本目標Ⅲ つながるシステム」は行政を横につなぎ、地域ぐるみで連携・協働していくというところは、力を入れてきたからこそ発展的な課題が指摘されたのかなと思えました。</p> <p>一方で「基本目標Ⅰ 心をつなぐ」「基本目標Ⅱ 人がつなぐ」について庁内関係課調査ではかなり厳しい結果が出てきていることをしっかりと受け止めて、第3期計画につなげていかないといけないと感じました。</p> <p>先程ご意見あったように、先が見えないということをお小さな単位から作っていく、そういう動きも必要でしょうし、ひとつひとつの地域活動や市民活動はボランティアなものですので、火を燃やしていく、鎮火させないような働きかけをどうしていくか、丁寧に結び合わせて支援していくというのは、今でいえば中間支援組織の在り方ですとか、専門職の人が地域の中で一緒に動き支えていくというのが求められているのだらうと考えられました。</p> <p>テキストマイニングについては、これで終わりではなく、第3期計画の中でアンケートの自由記述の部分それぞれの立場から読み解くのがとても重要だと再認識しました。以上です。</p>
山本会長	中間支援組織とはどういったものかご説明いただいてよろしいですか。
岡田副会長	異なる目的・価値観を持った組織が協働していく時に、触媒になるような組織で、今でいえば社会福祉協議会がそのような動きをしていますし、NPOでもそのような動きをしている団体も出てきています。さらに言えば、私が活動している新座市では地域福祉推進協議会という、各地区の住民と専門職がお互いの活動のプラットフォームをつくるというのを2007年第1期計画以降進めてきていて、それも地域型の中間支援組織のひとつであるように思います。

<p>山本会長</p>	<p>多様な形があるとは思いますが、ボランティアセンターの機能を拡充する形で、市民活動をつないでいくという形というような意味で、中間支援組織という発言でした。</p> <p>中間支援組織のようなものがふじみ野市でも活躍できるようにしていく必要があるということですかね。</p> <p>例えばP127の「ボランティア活動の支援と促進」ということで、市内の方からもコロナの影響でボランティア活動が衰退し、グループが解散してしまうといったご意見が出ていて、この部分について、コロナ後もう一度やり直すのをどう支援するか、ということをお前のまとめでも発言させていただきました。</p> <p>また、活動が衰退してグループがなくなってしまったということに対して、どうしていったらいいのかということも検討していかないといけないなと感じておりますが、今野委員いかがでしょうか。</p>
<p>今野委員</p>	<p>テキストマイニングでは、地域、連携、情報といったことが全部つながってくるということがわかりました。</p> <p>私の活動では、15年前に自治会長になってから、未だに後継者見つからない状態です。これは市内の自治組織に共通していて、歯止めが利かない状態です。</p> <p>さまざまな審議会で話題に出る活動も、自治組織でたくさん行っているのですが、情報の拡散という点で言うと、役員一人が担当する世帯数が多いこともあり、末端まで活動の情報が行き届いていない状況です。</p> <p>また、自治組織でやることは山のようにあるが、追いついていませんし、活動のための居場所がありません。周りの自治組織も高齢化の影響もあり、どんどん解散しているような状況です。これをどうにかしなきゃいけないというのは大変な作業だと感じています。</p> <p>また、私は公民館活動もしていますが、そちらでも高齢化が深刻で、これから下の世代にどうつなげていくか、意識を向かせるか、そういった活動を担うリーダーもおらず、人材確保が大きな課題です。</p> <p>地域福祉計画では、言葉だけでなく、実際にどう動いていくかということもしっかり考えてほしいと感じています。</p> <p>こういった会議に出席して、自分は何ができるのかといったことを考え、地元を持ち帰って活動させていただいています。</p>
<p>市来委員</p>	<p>今野委員のご意見を、本当にそうだよなと思いついておりました。他市もそうだと思うが自治組織の加入率が低い状況で、少子高齢化というのは日本の抱える大きな問題で、自治組織のさまざまな活動に協力することができないから、離れるしかないという方もいらっしゃいます。</p> <p>先程、きめ細やかな分析をというご意見がありましたが、アンケート結果で市民総合相談室等の認知度が低くなっておりませんが、私の印象では、迅速な対応をしてくれていて、かなり熱量のある活動をされていると思っています。ですので、この数値は次につなげていけばいいことであると思えました。</p> <p>私が日々活動していて感じていることですが、いきいきクラブの団体も少なくなつて解散しているところもあります。団体を立ち上げるにも補助金の関係である程度の人数が揃わないと認可されないということもあり、人数を確保するのが大変で、確保できても実際に活動している人はその中</p>

	<p>の6～7割という状況です。ですが、人数がそこまでいなくても集まりたいという思いがある方もいらっしゃると思います。そういう方たちですと、認可される人数ではないので、ボランティアで活動するしかなく、利用する場所の確保が難しい、そして高齢者となると、近い場所でないと難しい、そういった問題を解決できれば、芽が出ているものを育てることができるのではと思っています。</p> <p>若い人たちはインターネットツールですぐにつながるができますが、地域の元気な高齢者をもっと活用して、社会を支えていくことが地域共生社会の目指すところではないかと思います。第3期計画にはそういった希望を持てる内容を盛り込んでいって、ふじみ野市の今後の計画を決めていければなと思います。</p>
今野委員	<p>地域活動の中心は70～80代で、働き手の現役世代は地域活動に入ってくる余裕がない状況です。そういう人たちが安心してゆとりと余裕を持てるような制度づくりをしてもらいたいと感じています。</p> <p>今まで自分たちがやってきた活動の引き継ぎをして、現役世代と一緒にやっていきたいという気持ちはあり、どのように取り込んでいくかというのを検討するのにも、行政の支援があればいいなと思っています。</p>
山本会長	<p>具体的なお提案もいただきありがとうございます。</p> <p>今のところは、庁内関係課調査とテキストマイニングについてのご質問・ご意見いただいたところですが、すでに次の議題についてのご意見もいただいておりますので、皆さまの方から議題1についてのご意見があれば次の議題に入らせていただければと思うのですがいかがでしょうか。</p>
小泉委員	<p>庁内関係課調査のP129「福祉をつなぐネットワークの強化」の2つ目についての感想ですが、今後ここでの取組を強化していきながら、大きく発展していけたら、テキストマイニングの連携と交流をつなぐ線が太くなっていくのではないかなと思いました。今後もこのような自由記述に対する分析をやってもらえるのかわからないですが、「交流」という言葉はこれからも出てくると思いますので、テキストマイニングがどう変化していくのかを見て研究していくといいのかなというのと、楽しみだなと思いました。</p>
山本会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>「交流」という言葉がどのような文脈で出てきたのかという部分を見てもらうのもいいかもしれないですね。</p> <p>ご指摘いただいた、P129「福祉をつなぐネットワークの強化」の2つ目のところはもっと評価してもいいのではということですよ。</p>
小泉委員	<p>はい。</p> <p>引きこもりの方の居場所づくりや就労先の開拓などは、一番必要とされているところで、ロコミが大事だと思います。ロコミで広がればもっと自然につながると思います。</p>
山本会長	<p>こちらを実際にやられているのはどちらになるでしょうか。</p>
大川チームリーダー	<p>今年度で言いますと、私ども職員と「ふくし総合支援センターよりそい」のコミュニティソーシャルワーカーと一緒に、相談を受けながら</p>

<p>山本会長</p>	<p>課題に合致するような資源をマッチングさせるといった作業をしています。</p> <p>今年度のコミュニティソーシャルワーカーや就労支援員の取組の中で、市内の企業に出向いて、長期的に社会から孤立してしまっている方が社会復帰に向けてならし運転ができるような場所ということで、就労訓練や就労体験といった場の協力依頼をし、手を挙げてくれた企業へ2名ではありますが職場体験を1日させていただいたという実績があります。</p> <p>別のイベントでは、子どもの貧困対策ということでフードパントリーといった食糧支援もさせていただいており、その協力依頼の中で就労支援や職場体験の場所も同時に協力いただきたいというお願いにまわっているところです。次年度に向けて、具体的に話が進みそうな企業も出てきていますので、また前向きなご報告が来年度会議の場でできたらいいなと考えております。</p> <p>ありがとうございました。 こちらの取組はもっと評価してよいのではと思いますね。</p> <p>そうしましたら、このまま議題2に入らせていただきます。</p> <p>(2) 第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための調査結果報告書から見えた課題のまとめ</p>
<p>山本会長</p>	<p>それでは、議題2「第3期ふじみ野市地域福祉計画策定のための調査結果報告書から見えた課題のまとめ」について事務局より説明願います。</p>
<p>事務局</p>	<p>(事前送付資料②④により、議題2についてのポイントと課題のまとめについて説明) (資料内容の詳細についてジャパン総研より説明)</p>
<p>山本会長</p>	<p>こちらは、調査報告書から見えた課題と前回の審議会でみなさんからいただいたご意見をまとめていただいたものになります。</p> <p>このようにまとめていただきますと、こういうことが課題だということがより見えてきていると思います。</p> <p>みなさんをお願いしたいのは、大きく3つにまとめている課題について、ここは必要だよ、というところがあればご指摘いただきたい点と、もうひとつは、行政や社協などの専門職の方が取り組むことも大事ですが、地域の住民同士でどのようなことができるかという点についてアイデアをいただきたいです。</p> <p>先程ご意見いただきましたが、団体の活動や団体自体が減少していても、少人数なら集まりたいというニーズがあり、そういった芽を育てることも大事で、そのためには活動場所や移動手段も必要だというご指摘をいただきました。</p> <p>それから、働く世代がいかに地域で楽しく活動してもらおうかということの手段をもう少し考えた方がいいのでは、働く世代にとっては日々の生活が大変であっても、地域で活動することは楽しいということを伝えていく必要があるのではというご指摘もいただきました。</p> <p>ぜひ、何でもかまいませんので、皆さまからのご意見・アイデアをいただければとおもいます。</p> <p>奈良委員いかがでしょうか。ご専門のお立場からお願いします。</p>

<p>奈良委員</p>	<p>今日、みなさんからのご意見を聞いている中で、先が見えてきたかなと思うところがありました。</p> <p>今回、何もかもコロナのせいにはいけないと思いますが、コロナがあつて以前より人との距離感やひとりひとりについてのことを細かく配慮しないといけなくなったと思います。また家族の形も変わってきていると思います。親が子に求めること、子が親に求めること、といったような生き方・価値観なども変わってきていて、そこでコロナが流行し、人との距離をどう近づけていけばいいかというのが手探りの状態です。</p> <p>そういった中でも、小ぶりの活動はみなさん頑張って活動されていて、ずっと続いています。小さい活動は、人との距離も近く、外の人が入りにくいという点があるので、大きな活動を定期的に仕掛けることが必要だと思います。また、各活動にはリーダーのような方がいると思うのですが、求められるリーダーがどういうものかはっきりさせていくべきなのと、リーダーにはさらに上にリーダーがいたりします。そのようなものを段階的に示すなり、考えていくことが必要だと思いました。丁寧に小さい活動をしていくことがまずは価値観が違う人たちにとっていいのかな、それが大きな活動に結びついていくと、各課題へとつながってくるのかなと思います。</p> <p>若者についてですが、ボランティアは今、働き手という意味合いでも企業のアルバイトとの取り合いになっている状況です。ボランティアに参加したい気持ちがあってもアルバイトのシフトに穴をあけられない。企業側にしてみたら、ボランティアに参加するならば、人が足りないからシフトに入ってもらいたい。このような取り合いになって、若者も右往左往しています。でも、お金の入ってくるのはアルバイトとなると、ボランティアへの気持ちがあってもアルバイトにというように、ボランティアへの意識も下がっているように感じます。そのあたりも含めて、やりがいやボランティア活動が将来にどう役立つかということも考えていきたいと思っています。</p>
<p>山本会長</p>	<p>重要なお指摘いただきましてありがとうございます。</p> <p>おっしゃっていただいたことはすごく良い提案になると思います。</p> <p>ここで小さい単位での活動ということで、社会福祉協議会から本日資料をいただいておりますので、小さいというよりは少し大きなものになるかもしれませんが、協議体という活動も小さなものを応援していくというものではないのかなということで、ふじみ野市ではどのような状況になっているかご説明いただいてもよろしいでしょうか。</p>
<p>嶋村局長</p>	<p>(配付資料(生活支援体制整備事業について)により、第二層協議体、各圏域での活動について説明)</p> <p>(同配付資料により、地域デビュー講座「サロンDE講師しませんか!」について説明)</p>
<p>山本会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>こういった協議体という形で、大きな圏域ではありますが、従来の組織にとらわれずに広く色々な人がここに関わって、地域活動、地域組織づくりをやっているというのを社協さんがやってらっしゃるということでした。</p> <p>これに対して何かご意見ありますでしょうか。</p>

<p>柳川委員</p>	<p>若い世代は、お金がなく時間もない、それは子育てや日本の労働事情も関係してきて、余裕を持てる生活ができていれば、地域の中に出てくるはずだと思います。</p> <p>ひとつご提案したいのが、NPOやボランティアの再構築の部分です。市民活動に対し、自分たちの趣味を活かしたり、3~4人集まれば団体として成立するという感覚・認識を自分たち自身が持つということです。NPO法人については、今の日本では税制的な優遇がありませんので、そういった面の改善でしたり、団体登録を条件に活動の支援、活動場所のあっせんや助成等を考えていってほしいです。</p> <p>私自身も民生委員として活動する中で、社協が市の委託事業でやられている総合支援相談窓口は非常に役立っていて、よかったなと思っています。</p> <p>それから、企業や事業所がNPO活動を行う際に通常のNPO団体と同じように行えるようにするとやりやすいと思います。自主性に任せて活動できるのではないのでしょうか。</p> <p>自分が活動していたところでは専門分野で3~4人の小さな単位の組織をつくることができ、他のNPOやボランティア組織を助けたり、よくできた組織の体系があったように思います。企業もちゃんと組織を持ってNPO活動をやれるようにしていけばいいと考えます。</p> <p>そういったことを含めて、自由に活動していける体制をつくってあげばいいのではと思います。</p>
<p>山本会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>市民活動やNPOについて、重視はしてきましたが、そこをどうするかといった部分は今まで話をあまりしてこなかったと思うので、思い切って色々できるような仕組みを考えていくということも大事ななと今お聞きして思いました。</p> <p>なんとなく「組織はこのくらい的人数で、こうである」というように固まった考えになってしまうので、ふじみ野市として何ができるのか、あまり大きく枠にはめて考えないということも必要だと思います。</p>
<p>当麻委員</p>	<p>若い世代が地域に活動に出ていくのは難しいのではというお話もありましたが、それ以外のご意見でもいいので、当麻委員何かありますでしょうか。</p> <p>私たち子育て世帯はやはり余裕がないと思います。地域の人から「お祭りをやりたい」という声もありますが、応えるのが難しい部分があります。共働き世帯も増えていて、昼間家におらず、夜にならないと帰ってこない、平日はほとんど家にいないとなると厳しいですし、会社自体も人材が少なく、自分のことで精一杯で地域へ意識を向けるどころではない状況かなと感じます。</p> <p>PTA役員もやっていますが、今の時期はもめることもあります。子育て世帯が地元を意識を向けるにはもう少し余裕が出てからじゃないとなかなか難しいと思います。</p>
<p>山本会長</p>	<p>当麻委員は商工会青年部として活動されていることもあり、それが地域での活動につながっていると思います。</p>

<p>金田委員</p>	<p>PTAの話も出ましたが、金田委員いかがでしょうか。</p> <p>PTAのつながりで話をさせていただきますと、年齢の高い方は地域愛も高く、多少時間があるのでボランティアなどのお手伝いができると思いますが、やはり小中学校のPTAをやられるお父さんお母さんは、なかなか時間の確保や、物価高等で家計が大変な部分もあって、ボランティアをやっている場合ではないというのが現状です。</p> <p>では、どうやったら少しでもボランティアに参加してもらえるのかと話すこともありますが、やはり明確なメリットがないと賛同できないのではと思います。その部分については、私たちだけでは決められないことであり、明確なメリットを出していかないと、フワッとした形で継続した課題が残って終わってしまいます。</p> <p>ふじみ野市でも「こんなことをやっています」というように、しっかりとパスを出して、ボランティア活動をつないでいく仕組みができればいいと思います。</p>
<p>山本会長</p>	<p>「明確なパスを出す」というのは良いフレーズですね。これは今後使えるような気がしてきました。</p> <p>では、山城委員いかがでしょうか。</p>
<p>山城委員</p>	<p>子ども会でも毎年役員を選出してもらっており、市子連は子ども会で加入していただいていますので、平日の会議等は参加が無理なので、平日の活動が多いのであれば市子連には加入しないという団体が増えてきています。</p> <p>日頃の会議は私どもだけでするので日曜などに開催できていましたが、総会は事務局の出席や、市長をお呼びする関係で平日に開催していました。しかし、平日の開催が難しくなり、事務局と相談して数年前からは総会を日曜に開催させていただいています。やはりみなさんお仕事をされていて、ボランティアのために仕事を休むというのも厳しいので、団体の活動の仕方自体を変えていかないといけないのかなと思います。おやじの会では、土日に活動をされていると聞きますので、若い働き手の世代にそういった場で活動してもらうには、土日での活動にシフトしていかないと厳しいのかなというところはあります。</p>
<p>山本会長</p>	<p>ありがとうございます。 小林委員いかがでしょうか。</p>
<p>小林委員</p>	<p>私たちふじみの国際交流センターでも担い手の育成という点では困っているところもあるんですが、継続的に若い方に支援に携わってもらうというのは、ボランティアでやってもらうということになり難しい部分があります。今回の会議のポイントに沿って考えると、包括的な相談支援体制などの部分に関しては、会議にいらっしゃっている方々は支援の必要性を感じ、理解もされていらっしゃるので、今後もつながる相談窓口を通して強化をしていくのはそこまで難しくないので感じています。</p> <p>ですが、「助け合い・支え合いの強化と多様化」という部分で、市民のみなさんに協力していただくのは難しい部分があるのではと感じております。前回の審議会でもお話させていただきましたが、国際交流センターにご相談に来る方で、名前を記入するだけでいい書類の相談に来る方もたく</p>

<p>山本会長</p>	<p>さんいて、地域の方に支援に参加してもらいたいのですが、外国籍の方にそういったことを聞かれるのが嫌だという方もいらっしゃると思います。では、支援に参加してくれる方をどうやって募るかという部分がアイデアになってくると思うのですが、例えば、参加のために登録をしてもらうということになると、会議への出席や報告書が必要になったりすると、仕事をされている方はなかなか参加しづらいということがあると思うので、ご家族同士やご近所で解決できれば窓口や相談機関に行かずに済むが、その人材をどうやって発掘するかというのが課題なのかなと感じます。</p> <p>とてもいいアイデアだと思います。</p> <p>今はとにかくいろんなアイデアを出していただくことが大事だと思います。</p> <p>今日の議論を踏まえまして、村田委員ご意見ありますでしょうか。</p>
<p>村田委員</p>	<p>地域活動は、自分が興味のあることなら積極的に関わることかな、あとは自分のメリットがあるものにはどの世代も関わりを持つことかなと思います。例えば高齢者ですと、介護予防で自分の筋力・体力を維持したいということで、体操教室に多くの方が参加されています。ただ、活動する場が非常に少ないですし、色々な活動をしていてもその活動が地域の人に知れ渡らないようなものが数多く、「行きたいけれどどこに聞けばいいのか」「活動したいけれどどうしたらいいのか」というのが多いと思いますので、情報提供も今後は必要なかなと思います。</p>
<p>山本会長</p>	<p>それは私も本当に思っていることでして、情報というのはただSNSに流す、市報へ掲載するというだけでは難しいのが今なんだろうなと感じていますので、そのあたりは何かアイデアを考えていかないといけないと思っています。</p> <p>就労支援という言葉もありましたが、正田委員いかがでしょうか。</p>
<p>正田委員</p>	<p>引きこもり対策として、就労支援がゆくゆくはひとりで通勤ができて、仕事ができるようになる事業所等へつなげることができれば、ハローワークとしての機能も役に立っているのではないかと思いますので、そのあたりの連携をしていければと考えております。</p>
<p>山本会長</p>	<p>今もやっていらっしゃると思いますが、ハローワークさんの力を借りながら引きこもりの方の支援というのはより重要になってくると思います。</p> <p>みなさんたくさんのご意見ありがとうございました。</p> <p>(3) その他</p>
<p>山本会長</p>	<p>次に、議題3「その他」はありますか。ありましたら、事務局お願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>報告書について、今後印刷工程に入る前に、校正、変更が必要な場合には、会長・副会長にお諮りし、一任という形で修正させていただければと思うのですがいかがでしょうか。</p>
<p>山本会長</p>	<p>今事務局からご提案がありましたが、みなさんいかがでしょうか。</p>

	<p>(各委員より特になし)</p> <p>ありがとうございます。</p>
山本会長	<p>では、最後に事務局からご連絡事項はありますか。</p>
事務局	<p>(審議会委員報酬の振込予定等について事務連絡)</p>
事務局	<p>5. 閉会 それでは閉会にあたりまして、岡田副会長よりご挨拶をお願いします。</p>
岡田副会長	<p>みなさま、本日はお疲れ様でした。 今の暮らしの実態をしっかりとつかんで、発想を変える、やり方を変える、それだけでも光が見えてくるんだなと改めて今日は思われました。やはり若者世代という、労働や雇用といった部分に絡んできますので、私は最近「協同労働」その仕組みに関心を持って調べておまして、昨年10月から施行されました「労働者協同組合法」というものができたのですが、それは雇用されない働き方で、ひとりひとりが出資・経営をして従事する、それは地域のニーズに沿って自分たちで仕事をしていく、そして働く人も人間性を回復していくというやり方です。そういった社会運動とも絡んでくる今日の議論だったなと思いました。 協同労働という形ではなくとも、ひとりひとり住んでいる人が「こういうことをやりたい」「こんなことができるのではないか」という思いや活動を形にしていく場所がふじみ野市には必要であって、そしてキーワードとして「小さな活動をすり合わせていく、力づけていく」、そういう計画になればいいなと思いました。 今日八百屋さんの近くに国旗がたくさん飾られていて、色んな国の方が買い物されていて、これはふじみ野市が作ってきた多様性で、それはたくさんの壁があったと思うのですが、ふじみ野市にはそういった良さがたくさんあると思います。今回議論で思いましたのは、これまでやれてきたことをしっかりと活気づけてポジティブに前に進んでいくことがとても大切なんだと私自身も力づけられた会議でした。 みなさんお疲れ様でした。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、令和4年度第4回ふじみ野市地域福祉計画審議会を閉会いたします。 みなさま、ありがとうございました。</p>